

記載例

履 歴 書

(2011年4月22日現在)

申請職	准教授	氏名	埼玉一夫
所属講座	保健体育講座	生年月日	1971年8月19日 (39歳)
担当授業科目	日本体育史, 西洋体育史, 他 (学部) 体育史演習, 体育史特論 (大学院)	専門分野	西洋体育史

現住所 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255
電話 048-858-3142
メールアドレス kazu@mailto:mail.saitama-u.ac.jp

(1) 学 歴

1990年 3月	埼玉県立大久保高等学校卒業
1990年 4月	埼玉大学教育学部学校教育教員養成課程入学
1994年 3月	同上 卒業
1994年 4月	埼玉大学教育学部研究生 (1995年3月まで)
1995年 4月	埼玉大学大学院教育学研究科修士課程学校教育専攻入学
1997年 3月	同上 修了 (修士 (教育学))
1997年 4月	東西大学大学院教育学研究科博士課程教育学専攻入学
2001年 3月	同上 単位取得退学
2006年10月	博士 (教育学) (東西大学)

(2) 職 歴

2001年 4月 1日	日本学術振興会特別研究員 (2002年3月31日まで)
2002年 4月 1日	埼玉女子体育大学助教体育学部
2003年10月 1日	埼玉大学非常勤講師教育学部 (2004年3月31日まで)
2005年 4月 1日	埼玉女子体育大学講師体育学部 (2007年3月31日まで)
2007年 4月 1日	埼玉大学准教授教育学部 (現在に至る)
2008年 4月 1日	埼玉大学大学院教育学研究科担当 (現在に至る)
2003年 4月 1日	文部科学省在外研究員としてアメリカ合衆国 (ハーバード大学) にて研究 (2003年9月30日まで)

(3) 業 績

(a) 研究的業績

[監修・編]

1. 2004年 4月 『体育理論』体育評論社, 1000頁. (監修)

[編著書]

1. 2004年 5月 『体育原理』体育評論社, 500頁.
2. 2005年 8月 「体育史の研究方法」『体育学講座第3巻 体育研究法』(山田一郎編), 体育評論社, 第10章, 205-250頁. (埼玉一夫, 鈴木一郎他)
3. 2007年 *The history of physical education*. Seattle: Betty and Bros., 300pp.

[論文]

1. 1997年 3月 『ギリシャにおける体育理念の成立過程に関する一考察』(修士論文)
2. 2003年11月 「ローマにおける体育理念の成立過程」『埼玉女子体育大学紀要体育学部 (教育科学) (II)』第25巻 (山田一郎教授退官記念号), 35-50頁.

3. 2004年 1月 「ヨーロッパ中世における体育理念」『体育学研究』（日本体育学会）100巻1号, 55-99頁.
(山田一郎, 埼玉一夫)
4. 2004年 4月 "A study on will power of sport-players: psychological competence." *Jpn. J. Sport Psychol.*, Vol.10, No.3, pp.30-40. (Sakitama, K. et al.)
5. 2004年 6月 "Will power of sport-players." In *Handbook of sport*, 2nd ed. Yamada, I. and Suzuki, I. eds., Seattle: Betty and Bros., pp.20-30.
6. 2006年10月 『欧州体育理論発展史の考察』（博士論文）
7. 2008年 5月 「武士道の体育学的研究」『埼玉大学紀要教育学部（教育科学）（Ⅱ）』第10巻, 45-60頁.
(受理)

[競 技] (あるいは、[演 技], [演 奏], [作 曲], [指 揮], [作 品])

1. 1993年 5月 1993年度全国教育系大学剣道選手権大会団体優勝（主将）

[学会発表]

1. 2003年10月 「ヨーロッパと日本の体育理論発展史の比較考察」日本体育学会第100回大会. (仙台)
2. 2007年10月 "Will power of sport-players." Eleventh International Congress on Sport Psychology.
(ベルリン)

(b) その他業績

[編 著 書]

1. 2004年 4月 『やさしい剣道』体育評論社, 300頁.

[論 文]

1. 2004年 5月 「ボール遊び」『健康なからだ』体育出版, 1-6頁.

[事 典]

1. 2004年 6月 「ギリシャ・ローマの体育」, 「イギリスの体操」など10項目, 山田一郎編『体育大事典』
体育評論社.

(4) 学会等所属団体名およびそこでの活動

日本体育学会 (2001年4月～)

日本武道学会 (2001年4月～. 2003年4月～2004年3月; 学会誌編集委員, 2004年4月～2005年3月; 武道
史研究委員会委員)

(5) 大学における教育活動

体育原理, 西洋体育史, 体育史特殊講義, 剣道 (学部)

体育史演習, 体育史特論 (大学院)

(6) 社会的活動

特になし

(7) 賞 罰

な し

履歴書の書き方について

※ 業績・文献の書き方は、それぞれの学会及び領域の慣行に合わせてもよいが、書式は統一すること。

1. 用紙等

- 1) A4判を縦長にし、横書きとすること。
- 2) ページ番号を入れること。

2. 申請職等

- 1) 申請職等については、公募要領等に従うこと。

3. 各 項

1) 学歴

- ①学歴は高等学校卒業以降を書くこと。
- ②課程以外の学部については、学科名等も記入のこと。入学時に学科等が決まっていなかった場合には、卒業時においてそれを明記する。
- ③学部、課程等の変更は“編入学”とする。
- ④学歴には、“留学”を含めること。
- ⑤学位取得がある場合には、それを記載する。

2) 職歴

- ①職歴には、日付を記すこと。
- ②研修、研究等のための3ヶ月以上の出張は、本項に記載する。
- ③日本学術振興会特別研究員は、本項に記載する。
- ④公募要領に示された資格については、本項に記載する。

3) 業績

下記4を参照のこと。

4) 学会等所属団体名およびそこでの活動

- 「そこでの活動」には、理事、編集委員、研究委員等が該当する。

5) 大学における活動

- 助教のときの教育活動については授業担当者を明記した上、記載してもよい。

6) 社会的活動

- 政府・自治体の委員経歴がある場合には、それを記載する。

4. 業績の書き方について

- 1) (a)(b)にわたり、[監修・編]、[編著書]、[論文]、[競技]、[演技]、[演奏]、[作曲]、[指揮]、[作品]、[学会発表]、[翻訳・翻刻]、[事典]、[その他]の項目に分けて記載する。

- 2) 業績には項目ごとに、番号を付ける。

- 3) 本人が必要と思う業績はすべて記載すること。

- 4) 業績は、既に発行されたものに限る。ただし本学（埼玉大学教育学部）の紀要のみ、研究支援委員会が受理した論文受理日をもって記載することができる。その際の日付は受理年月とし、末尾に（受理）と書く。発行後のものについては、本学の紀要の場合を含め、すべて発行年月を記載する。

5) [編著書] について

i. 単著の場合

例1. 2004年 5月 『体育原理』体育評論社、500頁。

例2. 2007年 *The history of physical education*. Seattle: Betty and Bros., 300pp.

- 発行月の記載されていない（例えば、洋書）場合、月は書かなくてよい。

ii. 分担執筆の場合

例. 2005年 8月 「体育史の研究手法」『体育学講座第3巻 体育研究法』（山田一郎編）、体育評論社、第10章、205-250頁。（埼玉一夫、鈴木一郎他）

- ①共編著や共著については、ファーストオーサーを括弧内冒頭に書き、ファーストオーサーが誰であるかわかるようにする。

- ②205-250頁は、pp.205-250あるいは205-250としてもよい。

6) [論文] について

- ①編著書の分担執筆部分については、内容に関する著者の判断により [論文] の欄に書いてもよい。

- ②修士論文、博士論文はそれぞれ（ ）で示す。

i. 和文雑誌の場合

例. 「ヨーロッパ中世における体育理念」『体育学研究』（日本体育学会）100巻1号, 55-100頁. (山田一郎, 埼玉一夫)

- ①学会誌の場合, 編集学会名を, 学会誌以外の場合は, 編集体, 出版社等を () 内に書く. 編集が出版社である場合は, 出版社名のみを書く. 大学, 研究所の紀要であることが明白な場合はいない.
- ②号を示さず, 巻数のみ示し, 通し頁を用いてもよい. 巻数のみの場合, 100, 巻数と号数の場合, 100 (1) と示してもよい.

ii. 外国語雑誌等の場合

例1. (雑誌の場合) "A study on will power of sport-players: psychological competence." *Jpn. J. Sport Psychol.*, Vol.10, No.3, pp.30-40. (Sakitama, K. et al.)

例2. (単行本の場合) "Will power of sport-players." In *Handbook of sport*, 2nd ed. Yamada, I. and Suzuki, I. eds., Seattle: Betty and Bros., pp.20-30.

- ①クォーテーションマークを用いず, A study on will power of sport-players: psychological competence. でもよい.
 - ②*Jpn. J. Sport Psychol.* は, *Japanese Journal of Sport Psychology*でもよい.
 - ③学会の外国語雑誌の場合, 編集学会名を書かなくてもよい. きわめて著名な雑誌以外は, 編集体名または出版社名を雑誌名の後に () で入れることが望ましい.
 - ④Vol.10, No.3, は, 10:3 あるいは 10 (3) でもよい. 号を示さず, 巻数のみ示し, 通し頁を用いるとき, 10: 1050-1060. としよ.
 - ⑤pp.30-40は, 30-40 でもよい.
- 7) [競技], [演技], [演奏], [作曲], [指揮], [作品] については, 国内外のいずれかに記録が残っているものに限る.